



お手渡し容器の紹介

お手渡し容器は、三重県の伝統工芸品を用いて2種類の容器を作成しました。

伊賀くみひも

絹糸を主に金銀糸等を組糸に使い、高台、丸台などの伝統的な組台で生産しています。特に高台による手組み紐が有名で、全国生産の大半を占めています。

伊勢の根付

非常に硬い材質の地元産「朝熊黄楊(あさまつげ)」を材料とし、摩耗に強いのが特徴です。イセエビを模して制作しました。

尾鷲わっぱ

江戸時代初期から尾鷲地方の檜を利用して作られ、食品が痛みにくく、冷めにくいことから弁当箱として愛用されてきました。

四日市萬古焼

江戸時代中期、沼波弄山が自分の作品が永久に伝わるべく「萬古不易」の印を押したのが始まりとされ、紫泥急須や土鍋が代表的。

伊勢型紙

着物の生地を染める用具で、柿渋により和紙を加工した紙に、彫刻刀で着物の文様等を丹念に彫り抜いたものです。

松阪木綿

江戸時代初期から農家の副業として生産が盛んとなりました。伊勢商人により運ばれた江戸で人気を博しました。

